



★ 心に残っている あのこと このこと ◆

生き物係り婆さんと花咲爺さん

“ウゼンカズラ 二度咲きの巻”

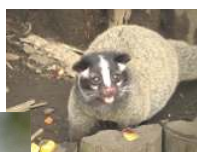
クリニックふれあい早稲田 院長 大場敏明

部屋から見えるお庭

30年程前のお股部腫瘍手術で、歩行困難となり、3-4年前から完全にベッド生活の佐々木泰さん。座ってテレビを見たり、庭の鳥や植物を観たりの闘病生活。長年連れ添う奥さんの英さんが、佐々木家の“生き物係”である。(今人気の三人グループの名前は、男性二人が小学校時代に生物係だった事に由来しているらしい。)

毎回々々の往診で、庭に溢れる草木や花実、室内にそっと置いてある鉢植えなどに見入る。ベッドから、四季折々の風景が満喫できる。生き物係お婆さんと、花木の名前や育てる苦労など一問一答。余りにも博識で、佐々木さんそっちのけ(失礼!)。メダカを育てたり、野生の鳩などに餌を購入して与えたり。動物だって上手に育てている。ある時、佐々木さんのオーバーテーブルの上に、緑色の小石が置いてあった。これは亀の卵で14歳になる草亀が産んだと。6歳から毎年、4~5ヶは産むと。11月から3ヶ月は冬眠させている。お見事。またある時、鳩への餌やり止めたと? のら猫が、餌を取りに来る鳩を狙ったと。「襲いかかってね」と悲しそう。佐々木さんも負けずに生き物に詳しい。「猫だけではないよ。ハクビシンも来る」とはビックリ。(調べると、漢字では「白鼻芯」。一目瞭然のネコ科の動物らしい)

佐々木家談義はいつも漫才風。佐々木さんが突っ込み役で、結構きつい横やりが入る。「残った鳩えさから、大麦の種を植えたら、半年がかりで生えてきたよ。麦茶にしようかと思ってね」と。まさか奥さんが買ってきた鳩えさを横取りしたわけじゃないですよと余計な心配。四季折々に咲く花たちの話題でも又楽しい突っ込み。藤の花が、見事に咲き誇ると、「丹精に手入れしているのは婆さんだ。二人あわせて花咲か爺婆」と。春には、庭の鑑梅を見て、「初物でも蠟梅だね。この年になると何にロウバイするかね」と言い放つ。初夏には、ぼけの盆栽が満開、「ぼけてきた俺みたいだ。盆栽は、毎年期日を決めて土を入れ替えるんだ」と、自分が作業しているのかの如き、自慢話し。



佐々木泰さん、英さん夫婦と仲間(?)達



ノウゼンカズラが、6月藤のつるに巻きつき見事に満開。いつもより綺麗とのオレンジ色の花々に、「婆さんに似て、狂い咲き。花が枯れてきて、人生も枯れてきている」と辛口。「藤の満開の後に、こんなに咲かすとは、また花咲か爺さんだね」というと、「花咲か婆さんだよ、灰を播いて栄養になって、花を開かせる」。ノウゼンカズラは、夏になってまた花開き、二度咲きになる。「暑い時とは、狂い咲き、婆さんみたいだね」等々、佐々木さん言いたい放題。話しも花咲か爺さんである。ちなみに、ノウゼンカズラ(凌霄花)の、花言葉は「女性らしい」「豊富な愛情」などである。

佐々木泰さんの話し咲かせも、「女性らしい」生き物係り奥さんの英さんへの“豊かな愛情”なのだ。

とっておきの一枚



9月に行った北海道旅行の時の写真です。場所は小樽(?)から新千歳に向かう峠道の展望台から撮りました。天気も良く雲の形も綺麗で、小樽の町並み、海、対岸の山々もうっすら見えるという風景。心が洗われるような一枚でもあり、また北海道でしか見られないのでは!? と思うそんな一枚でもあります。

<地域活動支援センターパティオ 石田めぐみ>

人は、ふれあう事で

「らしさ」と「魅力」が引き出されます

認知症対応型通所介護「ふれあい倶楽部」

阿部政枝

<開設から早、7周年>



ふれあい倶楽部は、三郷市では初めての認知症対応型通所介護事業所として開設し、今年で開設 7 周年になります。利用登録者は 1 日 12 人と小規模です。利用者さんとスタッフと心が通い合う、その人らしさを大切にすることをモットーに運営し、他の施設では受け入れられないと断られた方も積極的に通所支援をして楽しく過ごしていただくことを目指してまいりました。その事は、私たちの誇りの一つでもあります。でも正直、どう関わったらいいのかわからず、泣きの涙の時もありました。Bさん Cさん……と脳裏に浮かんでいきます。

<私は、どこに行くの?>

ふれあい倶楽部に通われている3分の1の方は、当初朝迎えに行くと車に乗って頂けません。自分がどこに行くのかわからない。いつものように家にいられないことが理解できなく、戸惑いや不安が大きくスムーズに来所して貰えませんでした。でも辛抱と粘り強く、急がずじっくりと接する事で 1 か月もすると少しずつ慣れて来所を楽しみにしてくれるようになります。

そんな中、最近通所をれたAさんですが、はじめは来所を拒み、皆さんが乗っている車に乗ってくれません。そんな時、私たちはおひとりで送り迎えます。安心して乗って下さるまで待ちます。例えば「帰りたと思ったらすぐに送ります。迎えに来ましたから行くだけ行きませんか」と、Aさんのペースに合わせて語りかけました。

最近は通所が楽しくなったようで、しっかりと準備をして外で待っていてくれます。もともと話し好きの方ですから「ふれあい倶楽部」でいろいろな方とおしゃべりをする



温かみのある鍋つかみ

楽しさや利用者の方皆で作る昼食準備も楽しみの一つになっているようです。

<毎日の楽しみは？ 食事でしょ！！ Aさんの変化>

ふれあい倶楽部は認知症のケアとして、食生活の自立を大切にしています。



わ～ 食べたいねエ

献立をみんなで決め、買い物に行き、調理をして食べ、後片づけもします。この過程は認知症の人にとって脳の活性化にもつながるものです。Aさんは昼食はいつもは一人でしたが、「たくさんの方と食べるとおいしわー」と言葉にし、食も細かったのですが現在は一人前をあっという間に食べています。また、本を見て折り紙を折ったり、ボランティアと歌う曲目を紙に書いてくれます。裁縫では鍋つかみにアクセント模様を入れてくれ現役時代の能力を発揮してくれています。ご本人のまんざらでもない様子にスタッフは大喜びしています。

このように役割があり皆さんに喜んで頂けるようになると、当初はフラフラすると言うのが口癖のような方でしたが、最近はサッと立って洗い物をやりだしてくれます。仲の良い女性や男性が洗い場に立っていると自分もやらないと思いき積極的になっていただけます。

<掛け合い漫談風にすると外出も楽しい>

自宅では殆ど外出はせず、たまに外出する時には車のようで、「ふれあい倶楽部」でも外出を渋ることが多いのですが、職員と信頼関係が生まれますと、声のかけ方にも“愛情+ちよつと強い言葉掛け”でお誘いします。例えばこんな風です。「お尻とイスがくっついてお婆あちゃん。お婆あちゃん、歩かないと歩けなくなりますよ(*^_^*)」。「え！？ 誰のこと？ お姉さんならいますけどねえ(^o^)。20歳だからまだまだ大丈夫よ！」「…大丈夫でしょうか??」。などと冗談を交えての返答もくるようになり楽しく出掛けられるようにもなりました。

帰り際には「私、毎日来るのかと思った。だって楽しいんだもの」といいます。朝、家族が利用日であることを伝えると楽しそうに準備を始めているとのこと。

1人ひとりの方に笑顔が生まれる通所介護事業所でありたい。楽しく元気にいつまでも通って頂けるようスタッフ一同皆様のご利用をお待ちしています。



美人ぞろいデース お待ちしています

障がい福祉相談支援センターが移転をしました。

〒341-0024 三郷市三郷 2-3-1 電話：048-949-2210 fax：048-957-3320



入り口です

有料老人ホーム未来倶楽部さんのご厚意で、ホームの1階に移転しました。車椅子でも来所できるなど環境整備の課題も解消し、相談支援の充実を図る為にもより良い環境が整いました。

今後とも皆様のニーズに応じていける様、職員一同頑張っていきますのでどうぞ宜しくお願い致します。

●三郷駅南口 日高食堂を右に歩き突き当たりを左に曲がると左側に未来倶楽部があります。向かって右側1階に事務所があります。

<余談>事務所移転後、何故か相談が急増しています。なかなか相談にのって貰えないという苦情もあり四苦八苦しています。

障がい者と語り合い・交流する 第7回パティオ講演会にお越しください

11月20日(水)11時～16時 三郷市文化会館小ホールにて

「自分らしさ」をテーマに、『自然体で行こう～ここからスタート、結果は後からついてくる～』をスローガンに開きます。こうありたいと願いを込めた障がい者の方々が中心に自分らしさを表現し、これからの自分、想い、地域生活者としてのメッセージを発信し合ひましょう。

講演会の柱は、①パネルディスカッション「自分らしく」 ②表現のひろば ③交流のひろば ④展示・販売のひろば、という4本柱となっております。参加者の皆さんと共に考え、感じ、楽しめる場になりたいと企画しています。是非、足を運んで来てください。参加は無料です。

<  time ～私の楽しみ・私の休日～ >

小規模多機能型居宅介護「えがお」
山上三恵

韓流ざんまい で～す

アカシア会で働くようになりちょうど2年目に入りました。仕事に対してもまだまだ未熟ですが、毎日がとても充実しており、楽しく働いています。

以前は休日に外出しないと気がすまず、ショッピングやドライブに行ったり、都心に出かけ雑誌に載っているお店に友達とランチに行ったりしていました。最近では友達の影響で韓国ドラマに、はまってしまい休日は友達と韓流ざんまいです。

主演者になった気分ドラマに引き込まれ、笑ったり泣いたり、それについて語ったりする事で私の休日は終わります。

一晩中集まって観るので、個々に一品持ち寄ったり、私の家に集まる時には料理をしたり、ちょっとした女子会になるのが楽しみです。

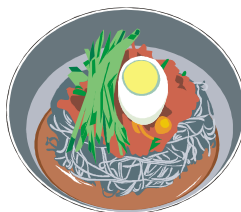
プライベートが充実することによって仕事への活力となり、利用者さんに対しても笑顔でいい支援が出来るよう、休日を大事に過ごしています。



駅で、ハイポーズ！



韓国料理から



【編集者 あれや これや】

パティオメンバーの田口直美さんは、絵手紙を書いています。どの絵手紙も大胆で、且つおおらかで私は大好きです。田口さんが、地域新聞と月刊誌「いつでも元気」に、とうもろこしを描いた絵手紙を投稿し相次いで採用され大喜びしています。田口さんの一言です。「生きてると、幸せなことがあるんだと思いました」と。満面の笑みでそう語ってくれました。ジーンとききました。田口さんが、最近、書いた財布です。ふくよかな財布ですね。お金が貯まりそうです。(長島)

